

# 話題の本を英語で読む！

★ 2階外国語資料コーナーの本から話題作をご紹介します！

## Fallout

# 1

### *The Hiroshima cover-up and the reporter who revealed it to the world*

Lesley Blume/著

Scribe, 2020

請求記号 Y936/BL

資料番号 0180872616

日本語訳は『ヒロシマを暴いた男 米国人ジャーナリスト、国家権力への挑戦』  
(高山 祥子/訳、集英社、2021.7)。

第二次世界大戦終戦から1年。アメリカの雑誌 *The New Yorker* は世間を揺るがす内容の特別号を発行します。通常は批評や小説などいくつかの記事で構成される雑誌が、その号は一冊まるごとアメリカ人記者 John Hersey 氏が書いた“Hiroshima”（日本語訳は『ヒロシマ』請求記号 936/ハ）でした。これは原子爆弾が投下された広島で、Hersey 氏自らが被害者たちの話を聞きレポートとしてまとめたもの。アメリカにとって遠い国である日本の出来事を、被害者の視点から伝える初めてのテキストでした。占領軍が厳しい報道規制を敷いている中で、どのように真実を暴き出す記事を取材、執筆、出版できたのか？人道的立場から記事を書いた Hersey 氏とはどんな人物か？を描くのが今回紹介する *Fallout* です。

時代が移り変わり、SNS では遠く離れた国の日常を即座に知ることができるようになりました。その日常がどこでもいつの日も平和であってほしいと願わずにおれません。

## 世界を旅する Lonely Planet シリーズ

Lonely Planet シリーズは英語で書かれた旅行ガイドブック。刊行地域は世界中のあらゆる場所で、アジア、ヨーロッパ、アメリカ、アフリカ、中東、オセアニア、さらに南極大陸までもカバーしています。ちなみに南極へは南米アルゼンチンやチリから船で2日ほどかかるそうです。宇宙へは10分ほどで行けるのですから、南極は宇宙よりも遠い場所と言えるかもしれませんね。一話が逸れましたが、この世界的に有名なガイドブックシリーズは、広告を一切掲載していません。中立・公平の立場から記事を執筆することを大切にしているのです。自分たちの「常識」は住んでいる場所が違えば、もしかしたら「非常識」なのかもしれない。旅行、特に海外に行くと今までと違う視点を持つようになります。まだしばらくは旅行が難しい時期が続きそうですが、いつかのため、ガイドブックで見たい景色や訪れたい場所を探しておこうと思います。



貸出中の場合もあります。ご不明の点はカウンター職員におたずねください。  
〒064-8516 札幌市中央区南22条西13丁目1番1号 電話 011-512-7355  
<http://www.city.sapporo.jp/toshokan/> 札幌市中央図書館 2階 外国語資料コーナー

## 2

### **The sober curious reset**

**Change the way you drink in 100 days or less**

Ruby Warrington/著

Running press, 2020

請求記号 Y369.8/W

資料番号 0180876807

『飲まない生き方 ソバーキュリアス』（永井 二菜/訳、方丈社、2021.11）

最近モクテル（ノンアルコールカクテル）を提供する飲食店が増えてきました。お酒を飲まない人＝飲めない人という時代は終わり。Sober（しらふ）ってどんな感じ？という好奇心（Curious）を持つ生き方を提唱するのがこちらの本です。飲酒がストレス発散方法の一つという人も多いと思いますが、アルコールはストレスなど負の感情だけでなく、喜びや楽しみといったプラスの感情まで麻痺させてしまうのだそうです。お酒をやめたら毎日が楽しくて、スキップしたくなると筆者は書いています。試しにしばらく飲むのを控え、代わりに瞑想（ストレスから脳を解放する方法のひとつ）を取り入れた生活をするのも良いかもしれませんね。

## 3 Severance

Ling Ma/著

Picador, 2019

請求記号 Y933.7/MA

資料番号 0180874984

日本語訳は『断絶』（藤井 光/訳、白水社、2021.4）

「パンデミック小説」という触書で出版された本作。未知の病「シェン熱」の流行により、感染者はゾンビ状態のまま過去の生活行動を繰り返し、やがて死に至るという恐ろしい状況に陥った世界。そんな中、主人公は住んでいたニューヨークを脱出し、安住の地を求めて旅を始めます。…ここまでの設定はよくあるパンデミック小説ですが、社会風刺や著者の移民体験による「断絶」感などがあらゆる箇所に散りばめられているため、読み手によっては受け取るものが異なってくるかも？

## 4

### **Life meets art**

**Inside the homes of the world's most creative people**

Sam Lubell/著

Phaidon Press, 2020

請求記号 Y527/L

資料番号 0180876674

日本語訳は『世界のアーティスト 250 人の部屋 人生と芸術が会う場所』（ヤナガワ 智予/訳、青幻舎インターナショナル、2021.11）

他人の私室を覗き見るのは、何となくソワソワしつつもワクワクするもの。その部屋が有名なあの人のものだったら、余計に興奮しませんか？ 本書では、世界的に有名なアーティストの部屋を美麗写真で紹介されており、モエレ沼公園を設計したイサム・ノグチさんの部屋も公開されています。一看すると、作業スペースと呼ぶのがふさわしいと思えてくる部屋。ここでさまざまな作品の構想が練られたのだと考えると、彼にとっては一番落ち着く場所だったのかもしれないと思わせられます。



貸出中の場合もあります。ご不明の点はカウンター職員におたずねください。  
〒064-8516 札幌市中央区南 22 条西 13 丁目 1 番 1 号 電話 011-512-7355  
<http://www.city.sapporo.jp/toshokan/> 札幌市中央図書館 2 階 外国語資料コーナー